



「キリストの使者・大使」

2026 年 10 月

聖書科教諭 清水 担

ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。
(コリントの信徒への手紙 二 5 章 20 節)

清教学園創立 75 周年を神に感謝します。私は高校 20 期です。来年度入学の高校生は 60 期と聞き、長きにわたる神の大きな恵みを改めて感謝しています。

この学び舎で過ごした 3 年間は私にとって重要な年月でした。今でも思い浮かぶ顔ぶれ、場面がたくさんあります。入学当時、校長をしておられた植田眞一先生の言葉は 40 年経つ今も心に残っています。そのうちの一つは河内長野駅の駅長さんから「清教学園の看板を出しませんか」と言われた時にこう答えたのだとお話くださったものです。

「うちの看板は生徒です。清教学園を知りたければ、生徒を見てください。」

生徒として、とてもうれしく、誇らしく感じました。と同時に、生徒としての責任・役割があるのだと思いました。

今月の聖句にある「使者」と訳されている言葉は、「大使」とも訳されます。(ambassador としている英語訳が多いです。)つまり、「わたしたちはキリストの大使」と言われているのです。

私が宣教師として家族と共にタンザニアに滞在していた 20 年近くの間に、ダルエスサラームにある日本大使館へ何度も足を運びました。在留届を出すこと、子供たちの教科書を受け取ること、パスポート更新などが主な目的でした。大使館からは安全情報をいただいていた。大使館には日本からの新聞が置かれていて、数日あるいは数週間前のものであっても、うれしく読んでいたのを思い出します。

大使(館)の働きは在留邦人向けのものと同時に、その国の人々に向けられたものがあります。在タンザニア日本大使の場合、タンザニアの人々に日本を知っていただくこと、また日本に入国するための手続きをすることなどです。大使(館)を通して、その国を知るのです。

「わたしたちはキリストの大使。」キリストご自身が人々に現れて、直接お話をしたら手っ取り早いと思うのですが、キリストはご自身のことばを伝える役割を人に託しておられます。この箇所を読んで、植田先生の生徒への思いと重なる部分があるのではないかと思います。

キリストに代わって伝える内容は何でしょうか。それは「神と和解させていただきなさい。」です。神の側には、何の誤りも不義もありません。私たち、人が神を離れ、神に対し不義を行なっているのです。私たちは神との関係が崩れている状態にある時、人との関係にも難しさを感じるのではないのでしょうか。神との関係回復、良い関係に戻ること、これを「和解」と言い表しているのだと思います。

私たち一人ひとりが神と和解させていただけますように。そして、キリストの大使として、神との和解を人々に願う者でありますように。

